



女子高生と株式市場

「世の中、変わったなあ……」といっても、21世紀を迎えてのご挨拶的な感慨ではない。インターネットのヘビーユーザーであれば、目の前で起きていることの、あまりの新しさに、思わずこんな素朴な感想が口をついて出てしまったことがあるのではないだろうか。米国アップル社の新製品発表会当日に、スティーブ・ジョブスのプレゼンテーションが、東京にいながら、映像でフルに観られる…。何十年も前から探していた曲の楽譜が、MP3のファイル付きで載せられている…。私が近年、変化を実感したのは、そんな状況に接したときだった。いずれの場合も、距離や物量を超えて情報が目の前に現れてくることの、単純な驚きと喜びだった。しかし、今回の場合は何かもっと本質的で、一言では表せない違いを感じてしまったのだ。

都内世田谷区にある私立戸板女子高校で、インターネットによる株式売買シミュレーションを取り入れた授業を見学させていただいた。写真にあるような、ごく普通の女の子たちが、ごく普通の口調で「アラビア石油、チヨウ下がったー」とか「ユニクロってスゴくない?(語尾上げ)」などと話しながら『日経会社情報』をめくったり、ウェブで株価をチェックしたりしている。これは「高校生、大学生のための株式学習コンテスト。日経ストクリーグ」という企画を活用した授業なのだ **Jump**。実際の株価に基づいた模擬売買の体験を通じて、経済や金融の仕組み、働きを理解するのがねらいだ。

1チーム100万円の仮想の元手を、10月初旬から11月中旬の間に株式市場に投資し、最終日の残高によって順位を確定する。また、11月初旬から中旬までの間に、先ほどとは別の500万円の仮想資金を3か月間は売却しないという前提で複数の企業に投資し、2月初旬の株価で順位を決める。それぞれ、株式売買の仕組み、長期保有と分散投資という概念を学ぶためのプランである。ここまでは、よくある株式シミュレーションコンテストと同じだ。しかし、これが「学習」たる所以は、株価だけで評価するのではなく、1月初旬までにチームごとにレポートを提出させ、自分たちが「どういうテーマで、なぜ?」その銘柄を選んだのかを発表させるところにある。そのレポートを委員会が審査し、最優秀のチ



ームは、米国研修旅行に招待されるのだ。今年初めてのコンテストだが、全国で150校が参加しているという。

これは、画期的な出来事だと思う。実は私自身、大学の非常勤講師としてコンピュータと社会の関係をテーマとした授業を、もう10年近く続けているので、現場感覚としてよくわかるのだが、日本の教育において「オカネ」は多くの場合タブーである。「経済」の授業はあっても、日常生活とはあまり関連が感じられない理論や古典である場合がほとんどだ。もちろん、商業高校などで簿記の授業があるが、それは就職のための職能としてテクニカルに教えられている傾向が強いはずだ。この状況を端的に表しているのが、「ストクリーグ」サイトの大見出しだろう。「経済大国に生まれた僕らには、生きた経済に触れる機会が、今までなかった」まさに、である。

学生の頃、アルバイトをして「源泉税」という言葉で引きされるオカネを不思議に思った。学校でも家庭でも、教えてくれなかったからだ。オカネに無縁でいられる人は存在しないのに、オカネについて体系的に学ぶ機会が少ないのは、どう考えても妙だ。冒頭に書いた「本質的な違い」とは、そんな日本人のオカネに対する「意識」の変化のことだったのだ。私は、来年の自分の授業にネット株式シミュレーションを、どう取り入れようか、真剣に考え始めている。

Jump www.manabow.com/index-main.html



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp